

平成28(2016)年「正覚寺報」5月号

ご案内

お聴聞と人生を語る会 5月1日(日)20時～

仏壯恒例の「お聴聞の会」は、発展的に首記のように改称しました。お聴聞を経て悩みの課題について如来様のお慈悲を仰ぐものです。

降誕会(ごうたんえ) 5月15日(日)13時半～

親鸞聖人のご誕生をお祝いする仏教壮年会主催になる正覚寺恒例の降誕会です。お子たちお孫さんたちと共に三世代でお参り戴くことのできるご法座です。賑やかに参り下さい。

仏教婦人会例会 5月16日(月)19時半～

お聴聞の基本となるのが例会です。互いにお声を掛け合って戴き賑やかに参り下さい。

常例ご法座出講のご報告

住職は、去る四月一日お昼の座から四日晨朝まで宗派常例布教、本願寺御堂法話に出講させて戴きました。どのようなご縁が働いて下さったのか、知る由もありませんが、有り難いご縁であったことは間違いがありません。

四日目は第四代善如上人ご祥月命日でしたので外陣でお参りをさせて戴き、お同行の皆様との有り難いご縁を頂戴しました。

ご法座には、畿内、滋賀教区、滋賀組の僧侶の皆様、正覚寺御門徒の皆様、御門徒様以外にもご縁を結んでいる皆様方にお運び戴きました。

夜のご法座には、宗門の新任職員様方五十名近くが研修日程としてお参り下さり、出講者としてまこととにやりがいを覚えるご法座となったことは、取り分け有り難いことでありました。

どういふご利益がありますか。

これは、今から二年半前のある秋の一日、人生の悩みを抱えてふと正覚寺のご本尊にお参り下さった青年から発せられたお訊ねでありました。

これにどうお応えするか、三ヶ月の煩悶を経て

結晶してきたのが、皆様よくご存知の仏教讃歌「ふとあおぎみるお姿は」だったのです。

楽器演奏もなくご紹介するには不可能だった「間奏曲」までがご法座の間に、ふとできるようになって下さいました。最終日の夜の座には作曲者の田淵幸響布教使様がお参り戴きましたのでお参りの皆様にご紹介させても戴きました。

金剛の真心を獲得すれば、横に五趣八難の道を超え、必ず現生に十種の益を獲(う)。

信心獲得により、次生は、最早、輪廻転生の迷いを断ち切り、今生では、心に多くの慶びを伴うご利益を頂戴し、世の人々に常行大悲を行ずることができる。

これが浄土真宗のご利益でありました。

常行大悲(じょうぎょうだいひ)の生きたお話から

先頃、当院の御門徒さんの葬儀が営まれました。兄弟姉妹のうちの長女が亡くなったのです。満中陰の日、合わせて墓地にお骨納めが営まれました。そのとき、二人の妹の筆になる写経がお骨と共に納められました。二人は「お父はん、お母はんのところへいくんやで」とずっと亡くなった本人に言い聞かせるように願っていたというのです。

御門徒さんのこの営みを皆様方はどのようにお受け止めになるでしょうか。

妹さんたちの行動は、「私一人の信心獲得、信心は一人しのぎ」の次元を超えていますね。

「お父はん、お母はんのところ」というのは、如来様のお膝元と頂戴できますね。

肉親の浄土往生を願わずにはおれなかった遺族の行動は、本願力に乗託して真心(信心)獲得と同時に賜る現生十種の益の一「常行大悲」の姿と頂戴できて新たな感動を覚えたことでありました。合掌。